

五年正月四日に、
治部少輔石上朝臣宅嗣の家

にして宴する歌三首

四二八二番

言ことしげ繁み 相問あひとはなくに 梅うめの花はな 雪ゆきにしをれて
うつろはむかも

四二八三番

梅うめの花はな 咲さけるが中なかに 含ふめるは 恋こひや隠こもれる
雪ゆきを待まつとか

四二八四番

新あらたしき 年としの初はじめに 思おもふどち い群むれて居をれば
嬉うれしくもあるか